



春友の飛び込み場(春友町)

## 水の思い出 ⑤⑤

緩くカーブしてきた里川が、現在の春友工芸の森にいたるあたりは、川の蛇行によって深みができていて子どもたちの水遊びのメッカでした。今のようにゲームもない頃、人が集まれば川遊びなどに行ったものでした。

30年ほど前は岸から伸びた樹木の幹が足場のようになっていて、いかにも飛び込み板のよう。主に中学生たちが飛び込み、はしゃいでいました。水面まで3mほどあり、飛び込めない人も多かったと記憶しています。このあたりは河内小学校と佐都小学校の学区の境ぎりぎりの場所で、別の学校に通う子どもどうしが、遊び場を取り合ったり、飛び込みを張り合ったりした思い出の場所でもあります。

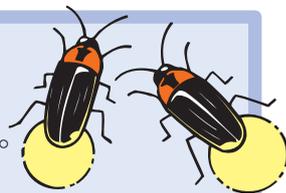
現在の里川は昔ほどの水かさもなく、小さな子どもさんでも岸辺で水遊びができるよう整備されています。飛び込み場もだいぶ浅くなっているようです。飛び込み場にしていた岸付近、昔は自由に出入りしていましたが、実は私有地だったことが後から分かりました。現在は飛び込みどころか、川遊び自体が禁止されています。外での遊びが室内でのゲームなどに変わってきてしまった今、やはり外で遊ぶ子を見かけたり子どもたちの遊ぶ声が聞こえるとほほえましく、気持ちが温かくなります。(井坂 泉)

# 常陸太田の昆虫名人



今年も暑い夏が始まりますね！夏といえば皆さんも子どものころ網とかごを持って虫を追いかけた記憶がありませんか？でも虫を追いかけているのは子どもばかりではありません。今回は市内で様々な虫を育てている方々の特集です。  
(萩谷 浩司、岡崎 靖、高橋 靖浩)

## ホタルが舞う里山を再び



梅雨に入った蒸し暑い夜、里山のきれいな小川ではゲンジボタルの乱舞が見られます。

ゲンジボタルの数は、生活排水などによる水質の悪化や護岸工事などにより激減し、県のレッドデータブックでは危急種とされています。常陸太田市内でも、ホタルの舞う里を取り戻そうと、カワニナやホタルの幼虫の養殖に取り組んでいる人たちがいます。



カワニナが生息する大中町  
和見地区の沢



沢で見つけたカワニナ

■大中町の筒井昌剛さんは、ゲンジボタルのオスとメスを近くの川で捕まえて産卵させると同時にゲンジボタルの幼虫が捕食するカワニナを養殖し孵化した幼虫に与え、ある程度成長した幼虫を地区の小川に放流する活動を行っていました。

筒井さんがカワニナの養殖に着目したのは、その場所に生息している「地元の蜚」を自然の生態系の中で大事に増やしたいとの思いからだといいます。毎年の活動により地区の小川では、たくさんのゲンジボタルが見られるようになったそうです。

■和田町ホタルの里づくり会の皆さんは、ホタルが群舞する夏の夜を取り戻し、子ども達と大人が一緒に楽しめる里づくりを進めています。昨年度市民提案型まちづくり事業に採択され、養殖装置を購入しホタルの幼虫の養殖に取り組みました。去年の夏は育てていた200匹の幼虫が30匹まで減ってしまうという大きな被害を受けてしまいました。今年は、6月11日に30数匹の源氏ボタルを放虫し6月末まで飛んでいたそうです。



ホタルの幼虫を飼育するための装置。沢の流れを再現しています。

## ホタル観察一口メモ

### ■ホタルが見られる時期と時間

朝の最低気温が16度を上回るようになるとホタルが見られるようになるようです。ホタルを観察するのは日が沈んだ後の1～2時間の8時～9時頃が最も適しているそうです。常陸太田市内だと6月中旬から見られるようです。

### ■ホタルと川の水質

ゲンジボタルとカワニナの棲む里というと澄みきった清流をイメージするかもしれませんが、多く生息するのは水質階級Ⅱというすこし汚れた水となります。あまりきれいすぎる川には、カワニナの餌となる有機物が少ないからです。

ゲンジボタルやカワニナが少なくなった理由は、農業や河川改修など、その他の要因のほうが大きいのかもしれません。

### ■どうしてゲンジボタルだけ注目される？

ホタルにはゲンジボタルのほかにヘイケボタルやヒメボタルなどがありますが、どうしてゲンジボタルだけが注目されるのでしょうか。ゲンジボタルの幼虫は、大変な偏食でカワニナだけを捕食します。したがってカワニナが絶滅した場合、ゲンジボタルも同じ道をたどることになります。他のホタルは、カワニナがいなくなっても他の貝などをたべて生きることができず、カワニナとゲンジボタルのデリケートな関係が、環境の指標として注目されているのです。

### ■ホタル前線

気象庁では、ゲンジボタルとヘイケボタルを観測対象とし、成虫が光の放ちながら飛んでいるのを初めて見た日を初日としています。日本全国の観測初日を桜前線のようにあらわしたものがあります。インターネットで「ホタル前線」を検索すると地域によってホタルの見られる時期がわかって面白いですよ。



## 日本ミツバチに魅せられて

趣味で日本ミツバチを飼っている藤 さん。庭には5つの巣箱があって、元気にハチが飛び回っていました。ハチというと刺されそうで怖いと思ってしまうのですが、日本ミツバチはそんなこともないようです。藤 さんに日本ミツバチの魅力について伺いました。

■飼育を始めたきっかけは、あるテレビ番組でした。もともと自然が好きだったこともあり、自分でもやってみようと巣箱を作って山に持って行ったそうです。しかし、巣箱は自然にあるハチの巣の近くに置かなければならないため、そのハチの巣を探し出すのが一苦勞。山の中を歩いて色々見ているうちに段々と分かるようになりました。初めてハチが巣箱に巣を作ってくれた時は感動したそうです。



日本ミツバチです。



これがハチの巣箱。手作りです。

■その後は本やインターネットで勉強しながらハチの飼育を学んでいった藤 さん。日本ミツバチは西洋ミツバチに比べておとなしいため、傷つけたりしなければ刺されたりすることはまずないとのこと。飼い始めた頃は、巣箱の脇にイスを置いて羽音を聞いていたり、巣箱を出入りする姿をずっと眺めていたりしたそうです。ハチを増やすのが楽しくて巣箱は現在5箱になってしまいましたが、これからは増やしたハチが自然に帰れるようにしていきたいとおっしゃっていました。



巣箱の中の様子。



巣箱から集められたハチミツ。市販されているものより力強い味でした。

## 巨大クワガタでギネスに挑戦

現在、上高倉町でクワガタ幼虫用のエサ（菌糸）を作っている神長幸一さん。そのエサで育てたクワガタは数々のギネス記録を達成し昆虫好きの間では評判になっています。以前はきのご栽培農家だった神長さんがどうしてクワガタ幼虫のエサを作るようになったのでしょうか？

### ■「全ては一本の電話から始まった。」

今から10年ほど前、神長さんのもとに一本の電話がありました。その電話は「クワガタ幼虫のエサを作っていないですか？」というものでした。なぜならきのご栽培の菌糸ビンはクワガタの幼虫を育てる時に使われているからです。それまでクワガタのことは全く知らなかった神長さん。取りあえずクワガタのエサを作ってみることにしました。試作品のエサを作って、クワガタを飼育している人に配ってデータを取ったり、自分でもクワガタを飼って研究した結果、6年前、ついに神長さんが作った菌糸でニジロ♀のギネス記録を達成することができました。



神長 幸一さん



これが神長さんの作っている菌糸ビンです。  
中にさなぎが見えます。



取材当日に見せていただいたオオクワガタ。  
ほぼ原寸大です。

### ■《神長きのご園ホームページ》

<http://kaminagakinokoen.ocnk.net/>

神長さんのホームページもご自身の手作りによるものです。  
こちらも独学により作り方を勉強して、現在も見やすさ、  
使いやすさを追求中とのこと。

広告

■「探究心を忘れない。」

クワガタは同じ種類でも生息地によって幼虫の食べるエサが違うそうです。神長さんはどの場所に住んでいるクワガタでもそれに対応したエサを作れるように研究を重ねています。エサを作るには材料の配合から水分量、湿度、温度など様々な条件が関わってきますが、それらを細かくデータを集めて作業する姿はまさに研究者でした。現在もお客様に合わせたオリジナル菌糸を作ったり、ギネス級のクワガタが羽化出来る菌糸を作ったりと研究は進んでいます。「自然界には人工羽化させたものより大きな物がある。それを考えるとなぜだろうと探究心が湧いてきてしまう。」とおっしゃる姿は、子どもの時に目を輝かせて昆虫を追いかけていた時の気持ちを思い出させてくれました。



オス

メス

ライターと比べるとその大きさが分かります。「タランドゥスオオツヤクワガタ」の標本。



■ついに達成ギネス記録

「ニジイロクワガタ」はオーストラリアのクイーンズランド州が主な生息地で、七色に輝く世界一美しいクワガタといわれています。

この時はこのクワガタの記録に多くの応募があったそうですが、神長さんの育てたクワガタが2位のクワガタに圧倒的に差を付けギネスを勝ち取りました。40mm くらいの個体はよく出るらしいのですが、神長さんの飼育した個体サイズの 44.7mm は過去に無い大きさで、関係者を驚かせたそうです。

神長さんが育てたギネス個体の「ニジイロクワガタ」のメス。

ふるさと  
の  
伝承  
暦

季節の節目をいどころ伝承行事が今見直されつつあります。日々の生活の中にある地域性に富んだ風習、いにしへの暮らしや暦に結びついた神事などをご紹介します。

高 灯 籠 (たかんとろう)

新盆を迎える家では、屋敷入口に高灯籠をたてます。高灯籠をたてるのは、その年に亡くなった人が初めてご先祖となり家を訪ねるそのときに、迷わないようにと目印のためにたてるといわれています。

8月1日の夕方に灯籠の中にロウソクを灯し、杉の木の柱に高く掲げ(5~6m)8月20日まで毎日続けるそうです。又、杉の木の柱の先端部分は葉を残し、灯籠は建具屋さんにて特注となります。

現在は、ロウソクの代わりに電球を使用しています。(真弓町 小吹 勝利)



まち だ ぼ だい じゅ

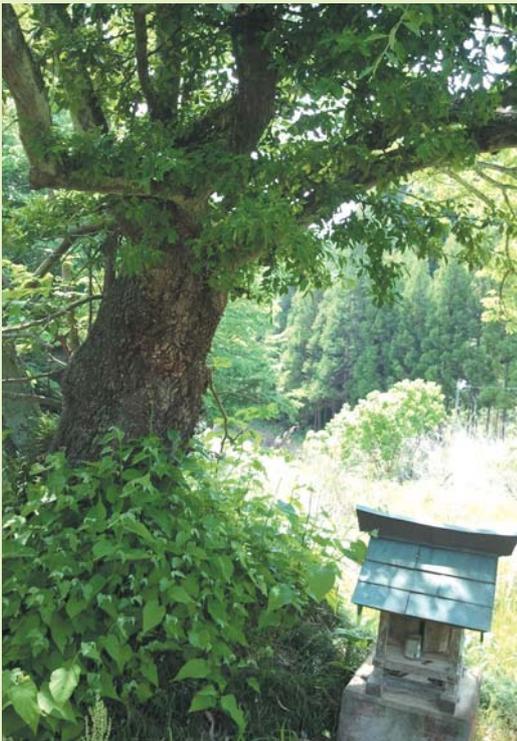
## 町田の菩提樹

## 常陸太田 樹木と人の物語 ④

10月29・30日、常陸太田市で「全国巨樹フォーラム」が開催されます。樹木はその姿の中に、育った土地の風土を内包し、巨樹は悠久の時の流れさえ感じさせます。フォンスでは巨樹ではないけど、人に愛された樹木をご紹介します。樹木と人が紡いできた物語です。

町田町の旧道から農家が点在するのどかな場所から数百メートル進むと、町田焼きの窯跡が現れます。その場所から数十メートル離れた田の畦に小高い塚があり、塚の上には堂々と菩提樹が立っています。離れた所から見ると端正な印象を受けます。しかし、近寄ってみると、幹周り2メートル程あり、とてもたくましい感じがします。

この菩提樹の根元には小さな祠があり、その昔、戦いに敗れた将軍が奥州に逃れる途中、あるお姫様（平将門ゆかりの姫といわれる）が、5人の従者と共に自害した所で、親鸞上人がこの地を訪れたとき、姫らの菩提を弔うために植えられたものと言われていました。



この他にも私たちの住まいのまわりにはまだまだ知られていない、それも町の中など日常のすぐ近くに巨木があるように思います。取材を通じて、地元の歴史を感じることができ、長い年月を生きてきたそんな木に会いに行くだけで、充分感動できるそんな気がします。（菊池 智之）

## 【菩提樹とは…】

菩提樹とは、クワ科のテンジクボダイジュの別名。この木の下で釈迦が悟りを開いたことで知られ、寺院の庭園によく植えられる。

原産地インドでは無憂樹（むゆうじゅ）・沙羅双樹（さらそうじゅ）とともに三大聖木とされる。

広告

# 百姓母ちゃん農日記 ① もんぺ便り

## 『夏の畑のクールビズ』

早朝、キュウリ・トマト・ズッキーニの収穫を終えて、静まり返った家の玄関に入ると、起きたばかりの息子が寝ぼけまなこで立っている。「おかあ！」と呼ぶその口に、もぎりたてのトマトを差し出すと、「食べていいの？」と言いながらガブリとかじりついてモグモグ、ムシャムシャ...「うまーい！」。朝の空気によく冷やされた赤いトマトは朝一番の目覚まし。細胞の奥まで酸味と甘みが身体にひろがる。

夏の朝はこうして静かに涼やかに始まり、そして昇る太陽と共に勢い忙しくなる。朝の涼いうちに収穫を終え、それから鶏のエサやり、苗の水やり、家族のごはん作り、子どもの身支度をさせやっとなごはん。もうこれで一日の半分は終わった気分になる。ひと息ついてから洗濯等をすませ、今度は畑の草取りや秋冬野菜の植え付けなど。

夏場の畑では、私はもんぺにTシャツを愛用する。もんぺはウエストも自在で腰からひざの部分もゆったりしていて動きやすく、足首も絞ってあり裾さばきが良い。

木綿<sup>かすり</sup>の紬は、はくほどになじんで心地よい。久留米紬のものをずっと愛用しているが、ところどころつぎ当てもあるもんぺに、上衣は元気なロゴ入りTシャツで畑にでる。私にとっての夏の勝負服<sup>ももひき</sup>といったところ。

“もんぺ”という名称は股引からきているようで、昔から作業着として農村で普及していたものが、特に戦時中防空用に着用を奨励された。そのこともあり、年齢によっては抵抗もあるのかもしれない。ばあちゃん世代はもんぺ着用率が高いけれど、中高年層はほとんどいない。しかし、私たちの世代は、古いものの無駄のなさや合理性に惹かれる。エスニックなファッションでも、もんぺに似たズボンが多い。そしてさらに、もんぺの爽快感は、最新の冷感素材も超える農業版クールビズだと思う。木綿の生地は足にまとわりつかないし、風をよく通す。そして、洗ってもすぐに乾いてくれる。これで畑を這いつくばって、汗にまみれ、土にまみれ、心地よい風に吹かれる瞬間が好きだ。そして作業の合間に畑でかぶりつく野菜の味もまた格別。生命のみなぎる夏の畑に合掌。(布施 美樹)



今号からちょっとリニューアルしました

### 子育て奮闘記

## 踊るママパラダイス 55

次々コキノの部活動では、新学期に伴い顧問の先生が変わりました。1年次の先生に大変お世話になっていたコキノは面白くないようで毎日のように不満が聞かれます。

他人を見るとき、嫌なところから見始めるとその人に対する評価はがんばしくないまま進行するものでしょう。それは子どもだからではなく、大人でも同じことです。私の周りには多々見られます。「あの人は、ああだから嫌い。」と言ってしまつと、その人がやることなすこと全てが嫌な行いに感じます。例え正しいことをしていても「いい格好して。」と言うことになりかねません。

私は、人と出会ったときはまず良いところを探そうと思っています。心に染み入るほどのことでなくても、ちょっと可愛らしいなと思う姿や思わず笑っちゃうような仕草、そんなことでもいいと考えています。そうすれば、嫌な部分を見たときも「あんな一面もあるけど、結構可愛いんだよね。人間だから。」と思えます。もっともそれですまないことだってありますけれど、40数年生きてきた私の経験上言えることであって、私もコキノの年にはこんなことは言えませんでした。今後、彼女の人生の経験値が良い方向に向くよう祈ります。いろんな人と関わって自分なりに「人の中で生きる」勉強をして欲しいものです。

そして同時に私は、コキノの言葉を丸飲みして一緒になって不平を言わないことを心がけなければと考えます。自分の子どもは可愛いです。言っていること丸ごと信じてやりたいけれど、一呼吸おいて不満の本質を眺めてみようと思います。娘の相手が持つ言い分や、自分なりに公平な判断が出来なければ“大人”である意味がないかもしれません。

がんばればイトコは見つかる!!



リレー  
エッセイ

## 「思い出の絵本」

『おつきよちゃんとかっぱ』  
『めっきらもつきら どおん どん』

～54～

(大里町 古目谷 富士子)

子どものためにと思って読み始めた絵本ですが、なんとも言えない気持ちになった本を紹介します。絵本は私の場合大好きな降矢奈々さんの絵というだけで興味がわいてきますが、「おつきよちゃんとかっぱ」「めっきらもつきら どおん どん」は自分の小さかった頃の時代と重なる部分もあり、また子どもをもつ母親という立場でも共感をもてるなにかがあります。

そして現実ともかけ離れている話ではありますが、心のどこかで「もしかして本当にあるかもしれない」そんな気持ちにさせてくれる不思議な魅力の本です。そう自分が子どもに戻って絵本を読んでいる気分させられる本なんです。昔なつかしい、ほっとする、メルヘンチックで、わくわくするんです。

そんな子どもに戻って読んでいる自分（私）に最後、絵本の中で母親が出てくるのですが、母親の登場で私を現実に戻して、母親ということ思い出させてくれます。

この二冊を読むだけで小さかった自分から大人になった自分まで体感できて、一粒で二度おいしい!! そんな感じで楽しめる本です。子どものためのものじゃなく大人に読んでもらいたいですね。

(次回は 大里町 水野 晃子さん)



長谷川摂子 作 ふりやなな 画

ほつ  
とひといき

## ヤブデマリ

(スイカズラ科)



山地の川沿いなど湿った場所に多い。まわりはやぶで、白い大きな手まりのような花を咲かせるのでこの名がある。ほかの花が盛りを過ぎた5月の終わりごろから大きな花が谷筋などに見られるのでよく目立つ。

園芸種のおオデマリはすべての花が装飾花（おしべめしべが機能しない花）となり、花期は4～5月。一方ヤブデマリは周縁にだけ白い装飾花がついているので区別できる。装飾花は昆虫の目を引くために目立つ大きな花となっている。果実は8月から赤くなり、秋までに黒く熟する。

おオデマリはヤブデマリの仲間だが、コデマリはバラ科のシモツケの仲間である。(桐原 弘)

やぶでまり白き<sup>そうか</sup>簇花咲きそめて  
若葉のながめ夏めきにけり (岡 麓)  
簇(そう)...群がる、集まる

ちよつとひといき

## 「レストラン 里美」



野菜の好きな方に朗報です。里美のJA直売所の隣に本格イタリアンレストランができました。

地元の旬の野菜をたっぷり使い、素材の良さを堪能させてくれる料理はぜひオススメです。食事の後はおとなりで野菜を買いたくなるかも...

シェフお任せのディナーは、旬の野菜や生ハム、チーズやお肉を使ったコースなので、楽しみがいっぱいです。(菊池 幾子)

- ランチ … 11:30～13:30  
1,000円 (土日祝祭日はドルチェ付き1,500円)
- ティータイム … 13:30～16:00  
各種飲み物及びドルチェ (スイーツ)
- ディナー … 18:00～20:00  
3,500円 (コース)  
※ディナーは完全予約制です (TEL:0294-82-2383)
- 定休日 水・木

## 常陸太田の地名話 ～6～

さきく  
幸久【旧幸久村、旧常陸太田市幸久地区】

明治13年久慈川に橋をかけたとき、橋の名前について上河合村と額田村で争いになった。そこで野口雨情の叔父、代議士の野口勝一が、防人の万葉歌「久慈川は 佐気久ありまで」から「佐気久」→「幸久」に通ずるとして幸久橋とした。明治22年、上河合、下河合、藤田、島、栗原が合併したとき、橋の名から幸久村と名づけた。

『常陸万葉風土記』宇野悦郎著

(石川 誠)



幸久橋と防人の歌碑